

畑大好き！ 食べるの大好き！

田んぼに畑、豊かな自然、豊かな里山に囲まれた花巻市立成島保育園。ライフスタイルの変化により、家庭ではなかなかできなくなってしまった代わりを保育園でにう。農業の豊かさ、食べ物大切さ、いのちの尊さ、伝統的食生活。子どもたちに伝えたいことは、特別なことでもなんでもなく、ずっと昔から地域で育まれてきた、ごくごく当たり前のことばかりだ。

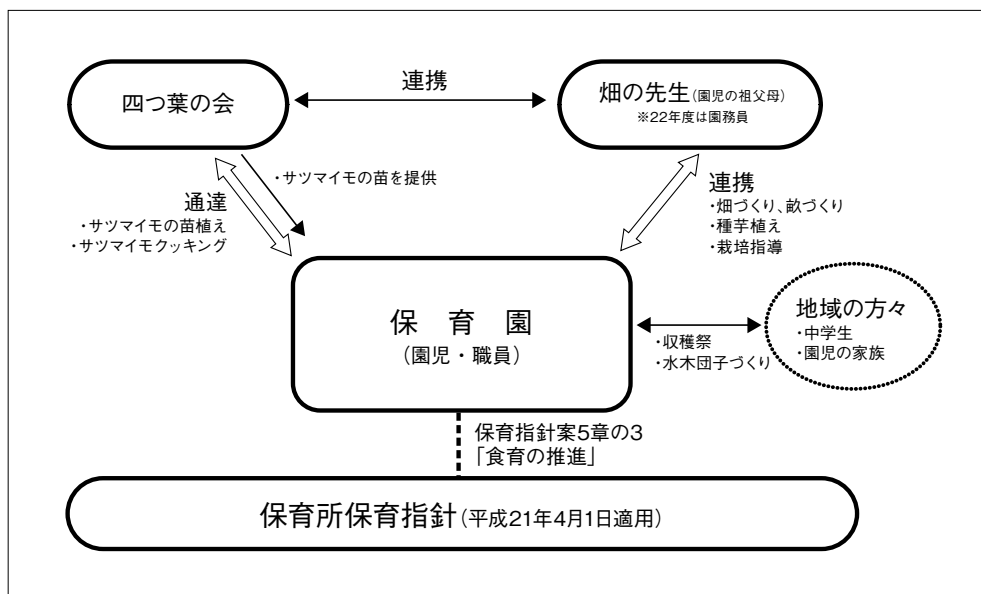
花巻市立成島保育園

取組主体

- 名称：岩手県花巻市立成島保育園
- 担当者：藤原 けい子(園長)
- 住所：岩手県花巻市東和町安俣9区307
- 電話：0198 (42) 2216
- FAX：0198 (42) 2216
- E-mail：
- 団体等の属性：保育園
- 構成員数(平成22年度)：職員9名・園児38名(0～5歳児)
- 連携団体及び協力団体
- ・属性：農業者、JA
- ・内訳：畑の先生(園児の祖父母 ※22年度は園務員)、JAいわて花巻女性部花巻地域支部東和支部四つ葉の会(以下「四つ葉の会」という)



豊かな里山に囲まれた地域



取組地域及び地域の特徴

取組地域：岩手県花巻市東和町

地域の特徴：

本地域は、北上山地の霊峰早池峰山と田瀬湖の豊かな自然に抱かれ、万葉の昔から「まほろばの郷」と呼ばれている。

成島保育園は東和町の中心部からは少し離れたところに位置し、周囲には田んぼや畑が広がり、またリンゴ栽培も盛んな土地である。

取組内容

(1)目的(目標)

成島保育園は、自然豊かな農村地域に位置していて農家の子も多いが、母親が勤めに出なければならなくなったなどライフスタイルの変化により、田んぼや畑、あるいは自然に触れる機会が、家庭では少なくなってきてしまった。そんな子どもたちが通ってきている保育園で、自然と触れ合いながら「食べることは生きること」＝「食育の心」の大切さを伝えたいと考え、一連の農業体験を実施することとした。



花巻市立成島保育園

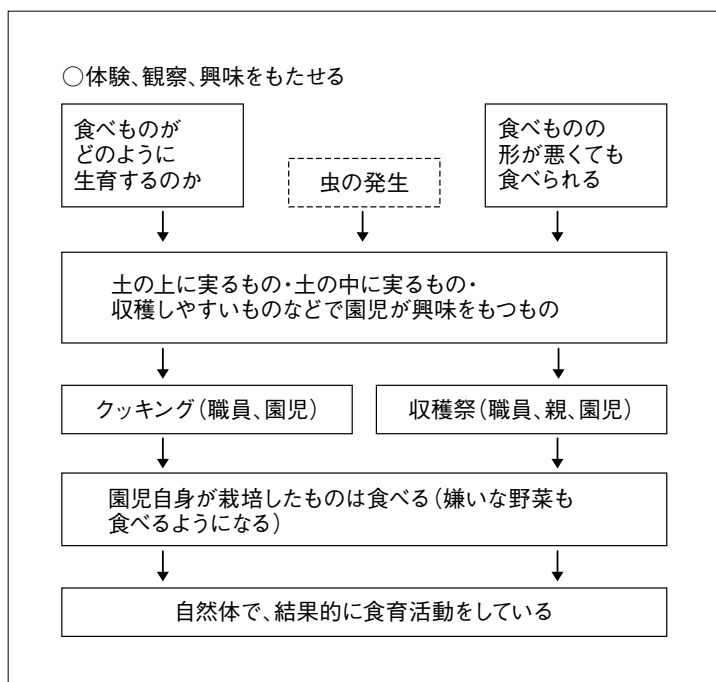
(2)取組開始時期：平成18年度

(3)対象作物：野菜

作物名・種類：ジャガイモ・サツマイモ、カボチャ、スイカ、ミニトマト、オクラ、トウモロコシ、ナス、ピーマン、他

選定理由：土の上・土の中に実るもの、色、形、大きさなど、さまざまな生育形態の違いで、子どもたちが興味をもって取り組めそうな作物を栽培している。

(4)具体的な取組内容



保育園敷地内の畑やプランターで、子どもたちにさまざまな野菜づくりを体験させている。1年間を通して、畑づくり、野菜植え、野菜などの育て方や観察、収穫、調理、「みんなで感謝しながらご馳走をいただく」という体験を行ない、「食べる意欲」へとつなげる。

7月には収穫した野菜を使って園児たちと職員がカレーをつくり、調理する楽しみを学んでいる。また、給食にも収穫した野菜を使用している。

毎年10月に、園児たちの家族や作業に関係する方たちを招いて収穫祭を行ない、自然の恵みに感謝しながら収穫の喜びを共有し、畑でとれた野菜を調理し、みんなで味わって食べている。



野菜づくりが子どもたちの「食べる意欲」を育てる



収穫したスイカ

(5) 年間スケジュール(平成21年度)

4月ジャガイモ植え

5月サツマイモ苗植え

6月野菜の苗植え

7月畑の草取り、カレーづくり

10月 サツマイモ掘り、収穫祭

11月 サツマイモクッキング

1月水木団子*づくり、餅つき

2月うどんづくり

*水木団子とは、小正月のときに、みずきの木の枝に紅・白・緑など色づけられた団子を飾り、それを仏様にお供えしたり室内や庭先に飾って五穀豊穡を願う伝統行事。今ではあまりやらなくなってしまった家庭も多いが、成島保育園では近所に住むお年寄りをお願いし、この行事のいわれなどを子どもたちに話しに来てもらっている。前の年にも体験した子どもたちからは、「今年もまたやるんでしょ」という声があがるようになる。

(6) 参加者数・属性の実績及び推移

- ・平成18年度：園児48名、畑の先生3名(園児の祖父母)、四つ葉の会9名、職員11名
- ・平成19年度：園児47名、畑の先生2名(園児の祖父母)、四つ葉の会8名、職員11名
- ・平成20年度：園児41名、畑の先生2名(園児の祖父母)、四つ葉の会7名、職員10名
- ・平成21年度：園児37名、畑の先生1名(園児の祖父母)、四つ葉の会7名、職員10名
- ・平成22年度：園児38名、畑の先生1名(園務員)、四つ葉の会7名、職員9名

(7) 経費

年間経費 約3000円(種代・苗代) (園の予算でまかなっている)

課題及び対処方法(ポイント・工夫)等

●関係者との連携の経緯：

・畑の先生：

取組み開始当時は、農業者である園児の祖父母たちが「畑の先生」(世話役)として、畑の準備、野菜の種類ごとの栽培計画、作業の進め方など、子どもたちの農業体験全般にわたって指導に当たった。

平成22年度は、家で農業を営んでいる園務員1名が、「畑の先生」になっている。

・四つ葉の会：

四つ葉の会からは、以前からサツマイモの苗を頂いていた。子どもたちが農業体験を行なうようになった現在は、子どもたちのサツマイモの苗植えからクッキングまでを一緒に行なっている。

●安全管理：

畑づくりは職員が行っており、園児たちが野菜の苗植え作業をする場合は手作業で行なっている。収穫時にハサミを使うこともあるが、年長の園児たちのなかでハサミを使える子に作業をしてもらっている。

子どもたちには、マイ包丁を持参してもらい、職員と四つ葉の会がマンツーマンで「ネコの手（材料の持ち手を丸める）」の包丁の切り方を指導している。

これまでの成果

- ・子どもたちが、葉っぱの成長、花の色の観察、害虫駆除（虫を手で取り除く）など、さまざまな作業を重ねるごとに、野菜が育つことへの関心を深め、特別の思いを持つようになってきている。それによって「食べること」が身近になった。
- ・最初は嫌いな野菜でも、進んで食べるようになった。
- ・給食の食べ残しが無くなった。
- ・自分たちが育てた野菜を自分たちで調理して食べることによって、健全な発育・成長に寄与し、自然体で結果的に食育を進めていることになっていると思う。
- ・0歳児でも、プランターで栽培しているミニトマトのところに連れて行くと、自分でミニトマトをとっておいしそうに食べている。



ひとつひとつの作業を真剣に見つめる

今後の構想、課題

保育園は、地域のなかでの保育園。保護者を始め、サツマイモ掘りを地元の中学生と一緒にやったり、お年寄りからお話を聞いたり、地域のいろいろな方たちに関わっていただきながら、現在できる範囲内で、これまでどおり取組みを進めていく。

みんなのコメント集

取組の 実践者

保育園職員

「取組みについては、特別なことをしているのではなく、当たり前のことを行なっているつもりです」
「園児たちが嫌がらない範囲で取り組むことができるのであれば、それで良いと考えています」
「特に土づくりの大切さについてはきちんと教えてあげたいですね」

四つ葉の会

「野菜が成長していくときの様子をしっかり見てもらって、生きているんだっていうことを感じてもらいたいです」
「草を取るときにも、“いのち”に気を配るくらいになってほしい」
「収穫したサツマイモをつくっておやつづくりとかもするんですけど、そういう交流がとても楽しいですよ」

参加者

子どもたちから

畑の日をととても楽しみにしているようで、「今日はサツマイモを植える日だよ」と言うと、「もうわかってるよー」って返ってきたりします。

終わると、「つくったよー」「できたよー」ってすぐに報告しにきます。家に帰っても、そういう話をお父さんやお母さんにしているみたいです。お母さんたちからも「前は野菜の話なんてしたことなかったのに」という声が上がってきます。

マイ包丁を使っの調理のときは、初めは怖がって使えない子も、周りのお友だちがやっているのを見ると「じゃあわたしも」ってなるみたいです。こういったことは、保育園ならではかもしれません。そうやって覚えたことを使って家でも夕食のお手伝いするようになったと、お母さんたちも喜んでいます。